

公私立大学実験動物施設協議会 2021 年度（令和 3 年）総会議事録

日 時：令和 3 年 6 月 18 日（金）

場 所：Zoom Webinar によるオンライン開催

【総 会】13：00～14：40

会員（施設）数：202 施設

出席会員（施設）数：146 施設

代議員（代理出席を含む）数：230 名（代表代議員 133 名，代議員 97 名）

来 賓：4 名

オブザーバー参加：15 名（文科省 2 名，厚労省 1 名，環境省 1 名，受賞者 1 名を含む）

非代議員：64 名

出席者合計数：313 名

1. 開会の辞：

佐加良英治副会長（兵庫医大）から出席会員（施設）数が過半数を上回るため本総会の成立が報告され、公私立大学実験動物施設協議会（以下「公私動協」という）の 2021 年度（令和 3 年）総会の開会が宣言された。

2. 会長挨拶：

國田 聡会長（自治医大）から来賓が紹介された。

新型コロナウイルス感染症拡大が衰えない状況から予定していた奈良市での開催を断念し、今年度は昨年度の書面審議による議決権行使に加えて、Zoom Webinar を利用したりリモート開催による総会及びシンポジウムを実施すること及び実験動物及び実験動物施設関連の情報の共有化を目的として本総会を企画したことが述べられた。企画における役員各位の尽力に謝意が述べられた。シンポジウムの演題及び講演者が紹介され、動物実験を取り巻く国内外の状況から、今日、特に動物実験関係者が取り組むべき課題は、自己点検・評価の確実な実施、公私動協の要請項目に準拠した状報公開及び外部検証の受検であることが強調され、更にこれらが疎かであると、2019 年に改正された動物愛護管理法の附則が、数年後の改正で現実のものとなることへの危機感の共有が求められた。外部検証が実施され 12 年を経ており、未受検会員には早急な受検が要望された。

3. 開催予定であった奈良春日野国際フォーラム・薨～I・RA・KA～のご案内：

久保役員（奈良医大）の挨拶ののち、奈良春日野国際フォーラム・薨～I・RA・KA～のプロモーションビデオが紹介された。

4. 来賓紹介：

丸山基世役員より以下の来賓が紹介され、挨拶の動画が配信された。

(1) 文部科学省研究振興局学術機関課研究設備係長（併）研究支援係長 中村 卓 様
学術研究に関する動向について、以下を中心に説明された。

① 令和 3 年度予算について：総予算額の 5 兆 2980 億円のうち文教関係予算 4 兆 216 億円が計上され、特に小学校 35 人学級の計画的な整備や GIGA スクールにおける学びの充実、感染症対策等の充実、新たな日常に向けた教育研究の推進では、私立大学等の改革の推進等や施設設備の予算について説明された。科学技術予算 9,768 億円の内、世界レベルの研究基盤を構築するための大学ファンドの創設に 4 兆 5000 億円、新規事業として科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業を取り入れ、博士課程後期の研究費・生活費の相当額の支給を行うこととした。国立大学法人運営公金のうち共同利用・共同研究体制の強化に 403 億円、その内訳として共同利用・共同研究拠点の強化に 69 億円、世界の学術フロンティアを先導する大規模プロジェクトの推進に 331 億

円とし、これは共同研究拠点の基にオールジャパン体制で最先端の学術研究基盤の整備とネットワーク（SINET）の強化を行うこととした。公私立大学を対象とした特色ある共同研究拠点の整備の推進事業 2.7 億円（特色ある研究資源を、大学の枠を超えて広く活用し、研究者が共同して研究を行う体制を整備することが必要、リモート化を含め、社会の急激な変化に対応した拠点の整備、機能強化を推進すること）が計上された。

- ② 科学技術・イノベーション基本計画について、現状認識からサイバー空間とフィジカル空間の融合による持続可能で強靱な社会への改革／新たな社会を設計し、価値創造の源泉となる「知」の創造／新たな社会を支える人材の育成を目指して Society 5.0 の実現に向けた科学技術・イノベーション政策が策定された（令和 3 年 3 月 26 日）。このうち多様な卓越した研究を生み出す環境の再構築の基礎研究・学術研究の振興、新たな研究システムの構築では研究 DX を支えるインフラ整備と高付加価値な研究の加速、大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張では科学技術振興機構（JST）に設置される 10 兆円規模の大学ファンドについて説明された。新規な共同利用拠点として、北九州市立大学の環境技術研究所先制医療工学研究センター／計測・分析センターと立命館大学アート・リサーチセンターが紹介された。ロードマップ 2020（概要）と大学等における研究基盤の整備・共用に係るガイドライン／ガイドブック（仮称）骨子案が説明された。大学ファンド創設のタイムスケジュールが CSTI 会合で進められており 2023 年には支援開始することが報告された。
- ③ 地方大学は地域の中核となり、地方公共団体や地域産業界と連携し、人材育成を目的とし、また共同利用・共同施設の概念を踏まえて研究に一層の成果を得ることが期待する旨が説明された。

(2) 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究係長 齋藤 正明 様

動物実験と実験動物の管理を取りまく政府の動きを説明するとともに、次の様に挨拶された。大学における動物実験及び実験動物の飼養保管は動物愛護管理法及び基準、基本指針を遵守し学長の責任により機関管理する体制である。動物愛護管理法は改正ごとの附則は、その後の状況によっては改正対象となる重要な項目と認識している。3R に関する第 41 条の附則に文科省として注視しており、基本指針の遵守において情報公開と外部検証、特に外部検証の推進を主要な課題と認識している。今後、環境省は令和元年の動物愛護管理法改正における附則（実験動物を取り扱う者の動物取扱業者への追加や replacement と reduction の義務化についての検討）について、現状のレビューを行う予定であることから、文科省としては例年の基本指針の遵守状況に関するアンケートを試行的に深掘りして確認することとした。令和 2 年度の獣医大学への生体を用いた実習について環境省が主体となって行ったアンケート調査（内容：カリキュラム毎の生体の扱いと大学全体の管理体制）の調査結果から、動物実験の 3R 原則の考え方は大学教育に浸透していることを確認し、各大学や全国大学獣医学関係代表者会議に対して通知を発出し、情報の共有化と相互の連携を求めた。外部検証は基本指針では努力目標ではあるが、積極的な取り組みをお願いしている。外部検証の重要性から平成 28 年度からナショナルバイオリソースプロジェクト「外部検証促進のための人材育成」事業を開始し、また平成 29 年度から日本実験動物学会が「動物実験に関する外部検証事業」を継承している。外部検証の普及とそのための人材育成は重要と認識しているので、今年度も公募に向けて準備を進めている。前回法改正時の平成 24 年頃に比べて、現在では会員の外部検証受検率が 70% に至っており、公私動協の努力は高く評価できる。引き続き、未受検機関への指導が公私動協に求められた。今後は、小規模な機関であっても学長の責務の下で機関管理することとなっているので、大学執行部は大学の課題と受け止め、公私動協に相談するなどして、外部検証を進めていただきたい。最後に、①基本指針等の各種規制に基づく機関管理の下で動物実験の適正な実施、②外部検証の実施と共にその結果の情報公開及び③最新の情報収集によるボトムアップの重要性と必要性が示され、会員に対して今後の取り組みが求められた。

(3) 国立大学法人動物実験施設協議会会長 杉山 文博 様

国動協は10の委員会で活動しており、昨年度はCOVID-19の感染拡大から、国動協と公私動協の調査委員会が連携してアンケート調査を行ったこと、また動物実験適正化委員会において基本指針、飼養保管基準及び外部検証を踏まえて機関内規程の雛形の改正に取り組んだことが報告された。毎年実施されている国動協の技術職員のための高度技術研修会は、COVID-19の感染拡大により開催できなかったことから、ワーキングチームを発足させて、「ウサギ、イヌ、ブタの基本手技」の動画を作成したことが報告され、その一部が披露された。本動画を公私動協会員にも提供することを國田会長と協議中である旨が報告された。

(4) 厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会会長 小木曾 昇 様

厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会は、厚生労働省関係研究機関（国・公立の試験・研究所、独立行政法人など）のなかで共同利用の実験動物施設を所有する国立機関（5機関）、独立行政法人等（15機関）及び地方公共団体等（5機関）で構成されている。令和2年度の活動として総会開催（6月）に加え、令和2年度厚生労働省科学特別研究事業に協力し、班会議との合同研修会を開催した。この研修会では、replacementとreductionの理解をテーマに、①「動物実験の代替法について」（小島 肇先生、国立医薬品食品衛生研究所）、②「A PREPARE から ARRIVE へ：新たなガイドラインの紹介」（織部信哉先生、理化学研究所）と③「サンプルサイズの設定」（野村周平、東京大学）の講演を行った。令和2年度厚生労働省科学特別研究事業（研究代表者：山海直）において、厚生労働省所管の研究機関に対する動物実験の実施状況に関するアンケートとヒアリング、「動物実験に関する自己点検・評価報告書」作成のツール開発（厚労働協のHPよりダウンロード可能）並びに「代替法」と「使用動物数の削減」のための最新の情報の収集・整理と実用性に配慮した考え方を提案した。令和3年度の活動計画が紹介され、今後も情報を共有して公私動協、国動協ならびに厚労働協がまとまることを提唱された。

5. 議 事：

(1) 令和2年度会務報告及び活動報告

國田 智会長（自治医大）から、2020年度定期総会の書面審議、第26回シンポジウムおよびサテライトミーティングの中止、会誌（公私動協年報No.28）の発行、Zoomにて3回の役員会の開催と持ち回り審議22回、「新型コロナウイルス対応計画作成例（2020年4月6日）」の会員への発出及び会員専用HPへの掲載、ICLASモニタリングセンター運営検討委員会の中止、平成30年度国動協総会の中止、動物実験関連団体円卓会議の中止が報告された。加えて、全ての委員会における令和2年度活動が報告された。

(2) 令和2年度委員会委員等の追加について報告

國田 智会長より、バイオセーフティ委員会に中村紳一郎（麻布大）の追加が報告された。

(3) 令和2年度会計報告

荒田 悟副会長・事務局長から、「2020年度収支計算書」の内容を説明され、会計報告がなされた。

(4) 令和2年度監査報告

喜多正和監事（京都立医大）から鈴木 真監事（沖縄科学技術大学院大）と「財産目録」を基に監査した結果、新型コロナウイルス感染拡大状況から例年とは異なる決算であったが、会計処理が適正かつ妥当であった旨の会計監査報告がなされた。

(5) 令和3年度活動計画（案）

① 会長としての運営方針

本日の総会及び第26回シンポジウムの開催、会誌の発行、役員会の開催について報告された。今

年度も引き続き、公私動協会員所属機関における適正な動物実験による教育と研究の進展を図るために、特に、会員所属機関における外部検証、未加入の機関の勧誘と動物実験関連法規遵守の周知等の啓蒙活動を推進することが示された。加えて、国動協および厚労働協等との連携・協力関係の強化と（公社）日本実験動物学会や（公社）日本実験動物協会等の関連学協会との情報共有を基に、会員あるいは社会に向けた情報発信を推進する旨が示された。

- ② 学術情報・広報委員会：委員長 田中聖一（福岡大）からは、（1）運用予定のメーリングリストのメンテナンスを継続すること、ホームページのメンテナンスを継続すること、会員専用ページの個別パスワード設定の実施に向け、役員会の協力を求めて引き続き検討を行うこと及び令和3年度については年報にID、パスワードを記載することで調整することが報告された。
- ③ 教育・研修委員会：委員長 小泉 誠（慈恵医大）からは、「実験動物管理者の教育訓練」を7月中旬の2週間（予定）企画し、特設サイトにてオンライン講習を開催し、修了要件として試験を行うこと、また、「動物福祉、麻酔方法、安楽死方法」をテーマとした実習形式の技術研修会を企画しているが、社会情勢に応じてオンラインでの研修も検討することが報告された。なお、技術研修のテーマはアンケートを参考に検討していることが報告された。その他必要に応じて会員校への情報提供を行うことが報告された。
- ④ バイオセーフティ委員会：委員長 佐々木 崇（札幌医大）からは、バイオセーフティに関連する安全管理や諸法令対応等の情報ならびに実験動物の健康管理・授受にあたって有益な新規感染症や微生物モニタリング等に関する情報を会員に提供することが報告された。また、豚熱、SARS-CoV-2、高病原性インフルエンザ等の実験動物感染症・人獣共通感染症に関する情報を収集し、会員への情報提供することが報告された。
- ⑤ 遺伝子組換え動物実験委員会：委員長 鈴木 真（沖縄科学技術大学院大）からは、遺伝子組換え動物に関する情報、海外からの研究用生物試料の受け入れに関する新しい国内ルールに関する情報及び「ゲノム編集」関わる国際的な動向に関する情報を収集し、会員に提供することが報告された。
- ⑥ 組織・制度検討委員会：委員長 若井 淳（岩手医大）からは、会則および「公私立大学実験動物施設協議会代議員のメーリングリスト利用規程」を含めた諸規程等の一部改正や整備を行うことが報告された。
- ⑦ 評価・検証制度検討委員会：委員長 喜多正和（京都府医大）からは、日本実験動物学会事業の一環として外部検証が例年通り実施され、受検申込締切日は7月末ではあるので早めに手続きするようにとの呼びかけがあった。
- ⑧ 記録・編集委員会：委員長 久保 薫（奈良県医大）からは、2021年度（令和3年）総会資料を作成したことならびに本総会の議事録の作成、年報29号の編集と発行、2022年度（令和4年）総会資料の作成を実施することが報告された。
- ⑨ アドバイザー委員会：長尾静子委員長（藤田医大）から、引き続き、質問・相談事項の寄稿を会員施設に広く募集する、より多くの会員に回答者として参加して頂く、話題になっている問題を提起し、Q&A方式で解説する、何でも質問箱の第2版を作成することが報告された。
- ⑩ 調査委員会：委員長 岡田利也（大阪府大）から、副委員長 宮嶋正康（和歌山県立医大）からの退任のご意向を踏まえ、今年度の残任期間の副委員長として磯野協一（和歌山県立医大）に務めていただくことが報告された。年度計画としては教育・研修委員会と協力して文部科学省基本指針への対応をフォローアップすることならびに「実験動物施設の現状調査」の項目を点検し、令和2年度の調査を行うことが報告された。なお、昨年度実施した「新型コロナウイルス感染対策に関するアンケート」の結果を本日のシンポジウムで発表することならびに国動協の調査委員会の同アンケート結果と合わせた内容は7月10日に開催される日本実験動物環境研究会で発表されることが報告され、日本実験動物環境研究会への参加が呼びかけられた。

⑪ 動物実験適正化委員会：佐加良英治委員長（兵庫医大）から、会員（施設）及び新規入会希望施設における動物実験の適正化を支援することの他、動物実験適正化に関する業務を役員会や会員の依頼に応じることが報告された。

⑫ 選挙管理委員会委員長：秋元敏夫（日本医大）から、選挙人名簿・被選挙人名簿の作成及び2021年度（令和3年）公私立大学実験動物施設協議会（公私動協）役員選挙実施要項（2021年5月11日改訂）に基づく役員選挙実施予定が報告された。

(6) 令和3年度予算案

荒田 悟副会長・事務局長から、「2021年度収支予算案」が提示された。

(7) その他

① 若井 淳役員（組織・制度検討委員会委員長、岩手医大）より「公私立大学実験動物施設協議会代議員のメーリングリスト利用規程の改正について」並びに②「公私立大学実験動物施設協議会資料等の会員利用に関する申し合わせ事項の改正について」が説明された。

② 秋元敏夫役員（選挙管理委員会委員長、日本医大）から、「2021年度（令和3年）公私立大学実験動物施設協議会（公私動協）役員選挙実施要項（2021年5月11日改訂）」が説明された。

(8) 議決結果報告

國田会長より総会前に送付した2021年度定期総会議案書を基に会員HP内の議決システムにより議決権行使され、以下の議案について全て過半数の承認を得たことが報告された。なお、会員メーリングリストの運用方法と会員名簿の表記に関する会員からの意見については、現行の運用を踏襲しつつ、アンケート結果を参考に対応を検討することとした。

6. 表彰：

当協議会に長年にわたり尽力された下田耕治（元副会長兼事務局長）に対して感謝状が贈呈された。

7. その他：

(1) 2022年度（令和4年）定期総会の開催について

2022年度（令和4年）定期総会等は以下の通り開催予定である旨が、世話人となる荒田 悟役員（昭和大）から報告された。詳細はホームページに掲載される。

日 時：令和4年6月17日（金曜日）

会 場：昭和大学上條記念館

〒630-8212 東京都品川区旗の台一丁目166番3

内 容：

1. 総会議事・第27回シンポジウム 13:00～17:00

2. サテライトミーティング 17:30～19:30

なお、教育研修委員会主催の研修会「実験動物管理者の教育訓練」は同会館で翌日（6月18日（土曜日））に開催予定であることが報告された。

(2) 2023年度（令和5年）定期総会の開催について

2023年度（令和5年）定期総会は以下の通り開催予定である旨が、世話人となる長尾静子（藤田医大）から報告された。詳細はホームページに掲載される。

日 時：令和5年6月（予定） 13:00～17:00（予定）

会 場：藤田医科大学

内 容：

1. 総会議事 13:00～14:00

2. 第27回シンポジウム 14:10～16:30

8. 閉会の辞

久保 薫役員（奈良医大）から閉会が宣言され、公私動協 2021 年度（令和 3 年）定期総会が閉会した。

資 料：

1. 公私立大学実験動物施設協議会 2021 年度（令和 3 年）定期総会資料

【第 26 回シンポジウム】 15：10～17：00

座長（久保 薫（奈良県医大）・佐加良英治（兵庫医大））の進行のもとで、4 題の講演が動画配信され、質疑が行われた。要旨は総会資料に掲載してある。

1. 改正動物愛護管理法について 浅利 達郎（環境省）
2. 公私動協における動物実験に関わる最近の動向 國田 智（自治医大）
3. 公私動協機関内規程雛形（第 3 版）の説 佐加良英治（兵庫医大）
4. 新型コロナウイルス感染対策に関するアンケート結果 岡田 利也（大阪府立大）

以 上